

10/19/64

DIALOG(R)File 347:JAPIO

(c) 2004 JPO & JAPIO. All rts. reserv

01420462 **Image available**

INQUIRING METHOD OF STORED INFORMATION

PUB. NO.: 59-132062 [JP 59132062 A]

PUBLISHED: July 30, 1984 (19840730)

INVENTOR(s): FUJITA YOSHIHARU

APPLICANT(s): TOSHIBA CORP [000307] (A Japanese Company or Corporation), JP

(Japan)

APPL. NO.: 58-004267 [JP 834267]

FILED: January 17, 1983 (19830117)

INTL CLASS: [3] G06F-015/20; G07B-001/00

JAPIO CLASS: 45.4 (INFORMATION PROCESSING -- Computer Applications);
29.4

(PRECISION INSTRUMENTS -- Business Machines)

JAPIO KEYWORD:R088 (PRECISION MACHINES -- Automatic Vending Machines)

JOURNAL: Section: P, Section No. 317, Vol. 08, No. 259, Pg. 155,
November 28, 1984 (19841128)

ABSTRACT

PURPOSE: To shorten the inquiry time, by giving peculiar data, which has a sequential meaning specifying each information, to information to be stored in a memory and inputting peculiar data and a part of information when this information is inquired.

CONSTITUTION: When information is stored in the memory, a sequential number which specifying information is added to this information. For example, in case of purchase of a commutation ticket, the operator watches a written application to operate an input device 1, and data is displayed on a CRT4. After setting, a name is image picked up from the written application by a name picking-up device 2 and is displayed together with a ticket surface pattern in the CRT 4. When data required for constitution of the thicket surface is completed, the input device 1 is operated to set a file of data. By this file command, a controller 9 determines a number of the commutation ticket, and a sequential number is given by a sequential number storage device 10 and is stored in a disc memory 7. Next, the controller 9 operates an application form printer 3 to print the amount of money, the ticket

CZ
20/2

number, and the sequential number on an application form. Thus,
retrieval
and inquiry are made easy when the commutation ticket is transferred
after.

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—132062

⑤ Int. Cl.³
G 06 F 15/20
G 07 B 1/00

識別記号

庁内整理番号
6619—5B
7347—3E

⑬ 公開 昭和59年(1984)7月30日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑭ 記憶情報の照会方法

川崎市幸区柳町70東京芝浦電気
株式会社柳町工場内

⑮ 特 願 昭58—4267
⑯ 出 願 昭58(1983)1月17日
⑰ 発 明 者 藤田義治

⑮ 出 願 人 株式会社東芝
川崎市幸区堀川町72番地
⑰ 代 理 人 弁理士 則近憲佑 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

記憶情報の照会方法

2. 特許請求の範囲

(1) 記憶装置に記憶されている情報の中から特定の情報を照会し照合するための方法であつて、上記記憶装置に記憶する各情報には各情報を特定するための連続的な意味付けを有する特異データを付与し、この記憶データを照会する際は上記特異データとともにその特異データの付与された情報の中の一部を入力することにより照会情報を照合することを特徴とする記憶情報の照会方法。

(2) 特異データは連番号であることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の記憶情報の照会方法。

(3) 特異データの設定により記憶装置から検索された情報は表示手段に表示し、照合は目視によつて行ない確認のための設定入力によつて照合を完了することを特徴とする特許請求の範囲第

1項記載の記憶情報の照会方法。

(4) 確認のための設定入力によつて照合を完了した情報は記憶装置から消去することを特徴とする特許請求の範囲第3項記載の記憶情報の照会方法。

(5) 記憶装置に記憶する各情報と対応する特異データは目視固定情報として外部に出力することを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の記憶情報の照会方法。

(6) 照合のできた情報は消去することを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の記憶情報の照会方法。

3. 発明の詳細な説明

〔発明の技術分野〕

本発明は、各種電子機器において、その機器の記憶装置にファイルされているデータを迅速に検索して照合するための方法に関する。本発明は画像情報ファイル装置、各種有価証券類の発行装置、自動販売機、金融機器、流通機器、大型の電子計算機、オフィスコンピュータ等の

CZ
1092

電子機器に使用することができる。

〔発明の技術的背景〕

上記各種の電子機器の1つとして乗車券発行機がある。従来、乗車券の発行装置においては券の発行によりその券毎に発券番号を付与し、乗車券に印刷して発行している。そして、この発券番号は売上の集計等のデータ処理、解約時のデータ検索などに使われている。特に予約の解除作業においては、係員が操作部のテンキーなどを操作して発券番号(時には予約番号)を入力することによってファイルデータから検索し、削除(解約)処理をしていた。しかしながら、この入力操作においてテンキーなどの押釦操作を誤つて値数ミスが発生した場合、乗車券データには同様なデータが多いため、チェックできずに異つたデータ、すなわち消してはならないデータを削除してしまうというおそれがあった。

〔発明の目的〕

本発明は上記事情にもとづいてなされたもの

その券に自動改札用情報も記録して発行する発券装置5、取引情報を順次印字して出力するジャーナルプリンタ6、各種取引情報を記憶しておくディスクメモリ7、ディスクメモリ7を制御するディスクコントローラ8、定期券発行機全体を制御する制御装置9、取引データの最新の連番を記憶し、一取引の終了毎にそのデータが更新して記憶される連番記憶装置10とを備えている。制御装置9は入力装置1、氏名撮像装置2、申込用紙プリンタ3、CRTディスプレイ装置4、発券装置5、ジャーナルプリンタ6、ディスクコントローラ8とバスライン11で接続され、各装置を制御する。さらに本装置はオプションとして旧定期券の読取装置(旧券リーダーと称す)12を付加することができる。この旧券リーダー12は旧定期券に記載された情報を読み取り制御装置9に伝送するもので、定期券の継続発行時などにおいては、入力装置1や時には氏名撮像装置2の操作を省略してその旧券の発着駅、経由駅、券種、適用期日、氏名、

で照会した情報の照合を迅速かつ正確に行なえるようにすることを目的とする。

〔発明の概要〕

本発明は上記の目的を達成するために、記憶装置に記憶する各情報には各情報を特定するための特異データを付与し、この記憶データを照会する際は特異データとともにその特異データの付与された情報の中の一部も入力することによりその情報を照合するようにしたところに特徴がある。

〔発明の実施例〕

以下、本発明を図示の一実施例を参照しながら説明する。第1図は定期乗車券発行機のブロック図である。第1図の発行機は各種データを入力する入力装置1、定期券申込用紙に記載された申込者の手書氏名を撮像する氏名撮像装置2、申込用紙に発券番号、金額、並びにデータ処理用の連番を印字する申込用紙用プリンタ3、発券データや操作案内を表示するCRTディスプレイ装置4、券を印刷し、必要に応じて

年令性別などの情報をもとに新しい定期券を発行することができる。

次に上記構成からなる定期券発行機の動作を説明する。本装置は駅の定期券発売所に設置される。券の購入希望者は申込用紙の所定欄に自分の氏名、年令、性別、利用区間(発着駅)、経由駅、利用期間、券種などの必要事項を記入して駅員に提出する。比較的すいている場合には駅員はその場で券を作成し利用者に渡すが、窓口が混雑しているときやあいにく現金の手持がないときは利用客は申込用紙だけを提出して後日に券を受け取ることもできる。

以下この後日受け取りの場合の装置の動作を中心にして説明する。係員は申込用紙の記入事項を見ながら入力装置1を操作する。入力されたデータはCRT4に表示される。CRT4を目視して修正があれば同じく入力装置1によって修正する。設定が終ると申込用紙を申込用紙投入口(図示せず)に投入する。投入された申込用紙の氏名パターンは氏名撮像装置2によつ

て撮像される。撮像されたパターンデータは発券装置5によつて発行される予定の券面パターンとともにCRT4上に表示される。このパターンの構成は制御装置9によつて行なわれる。券面構成他の必要なデータの入力が終わると係員は入力装置1の設定によりこのデータのファイルを設定する。このファイル指令が出されると制御装置9はこの定期券の券番号を定め、かつ連番号記憶装置10の取引データの連番号を付与する。このデータ連番、券番号等が付与されたデータはディスクコントローラ8によつて制御されるディスクメモリ7にファイルされる。このファイルデータの例を第2図(a)(b)に示す。これらデータはデータ連番を検索キーワードの頭として記憶し、各記憶情報はすべて検索用のキーワードとなり得るデータであり、また券面構成のための必須の情報でもある。第2図(a)は予約業務、発券業務時の記録データ、第2図(b)は入金業務の記録データである。なお、第2図の実施例には券面パターンそのものはファイル

していないが、ディスクメモリの容量が許されるならば券面パターンそのものもファイルしておいても良い。券面パターンもファイルしておけばファイルデータの呼出後の券面パターン構成の時間を節約することができる。ディスクコントローラ8はディスクメモリ7にデータ連番を頭にしてほぼ連続的にデータを記録する。したがつて通常はディスクメモリ7からデータを検索するときは各データの頭のデータ連番を捜すことになる。データがファイルされると制御装置9は申込用紙プリンタ3を作動させて申込用紙に発券番号、金額及びデータ連番を記入する。また、制御装置9は取引が1段落するとともにジャーナルプリンタ6を作動させて取引状況を記録する。また、このジャーナルプリンタには入力装置1からの指示によりディスクメモリ7にファイルされているデータのリストをデータ連番、データ種別、券番号、金額などのデータをともなつて印字する。

次に、客がこの定期券を後日受け取る場合の

入金操作について説明する。客は申込用紙を提出した窓口に行つて名まえを係員に告げる。係員は該当者の申込用紙をさがし出し、入力装置1を入金モードに設定した後その申込用紙に記載されているデータ連番、発券番号を入力装置1のテンキー（図示せず）などを使用して入力する。制御装置9は入力装置1から入力されたデータ連番をもとにディスクメモリ7のデータをディスクコントローラ8を作動させて検索する。検索したデータはさらに発券番号が照合される。照合が一致すると券面データがCRT4に表示される。照合が一致しないときは一致しない旨と係員の入力データが表示される。このとき券面パターンをファイルしていればそのパターンを表示してもよい。係員はこの表示データを見ながら客に確認を取る。このとき訂正か所があれば入力装置1の操作によつて変更する。発券可能なことが確認できると係員は入力装置1内の発券のスタートボタン（図示せず）を押す。この操作によりディスクメモリ7内の該当デー

タに対応する券が発券装置5から発行される。そして係員は客から料金を受け取り、入金金額を入力装置1から入力する。この入金データも1取引としてディスクメモリ7に記録される。このデータの概略は第2図(b)に示した。また、取引データはジャーナルプリンタ6にも記録される。入金の終つた第2図(a)のような発券データの方はディスクメモリ7から消去される。

尚、投入データを単に消去するだけの際もデータ連番号のほか発券番号や料金等のデータを入力して照合することにより、そのデータが消去すべきデータであることを確認した上で消去する。

さらに、上記実施例では予約時には発券せず、データファイルに登録するのみであるが、本発明を実施するためには必ずしもこの方法ばかりでなく、予約時に券を発行して申込用紙とともに保管しておき、後日受取の際は入金処理だけを行なうようにすれば発券業務は非常に簡素化短縮化することができる。もつともこの場合は

券の保管に十分注意する必要がある。

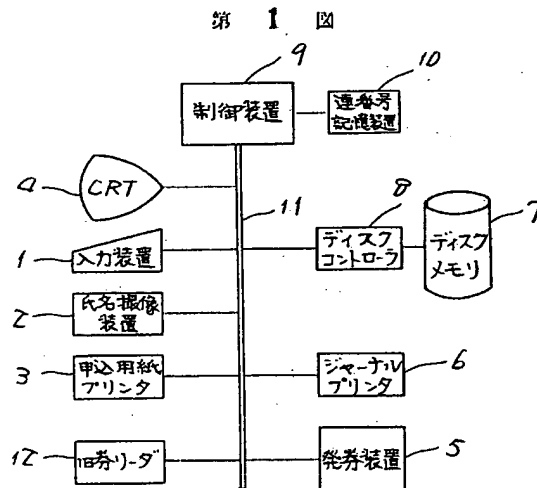
また、上記実施例では定期券発行機について説明したが、本発明はこの実施例ばかりでなく、画像情報ファイル装置、各種有価証券の発行装置、自動販売機、金融機器、オフィスコンピュータ、ワードプロセッサ等各種電子機器に応用することができる。

〔発明の効果〕

以上説明したように本発明によれば、データの検索・照会時間を短縮することができ、しかも検索・照会とともにそのデータの照合も迅速に行なうことができるという特徴を有する。したがって本発明の方法は秘密性を有する情報の検索や記憶情報の中から特定のものを選んで消去しなければならないような場合に迅速かつ適切に処理することができるので有効である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示すブロック図、第2図(a)、(b)は、同例の記憶情報の説明図である。



第 2 図
(a)

データ連番	データ種別	券番号	金額	発駅コード	経路コード	着駅コード	通期開始日	発売条件
							年 月 日	時刻 区間

(b)

データ連番	データ種別	券番号	入金金額
-------	-------	-----	------